



## AI とトランプの勝利 (12月のごあいさつ)

平成 28 年 12 月 1 日 (木)

12 月は寒さを感じる日が多いですが、一年中で雨の最も少ない月です。

アメリカの大統領選挙投票の前日、テレビを見ていると中国の猿が、トランプが勝つか、クリントンが勝つかの占いをしていた。大きな湖を背景にした舞台に赤いチョッキを着た占い猿が行ったり来たりしている。舞台の左端にはトランプの顔を描いたのぼりが立てられ、右端にはクリントンののぼりがある。占い師の言葉を聴いて数分間、その猿は行ったり来たりしていたが、**決定的瞬間**、トランプののぼりに抱きついた。占い師は、トランプの勝利だと断言した。それほど勝敗の判定が難しい状況だった。

ある優秀な経営者がこのコンピュータ時代、マスコミ等ではクリントンばかりで、何故トランプの勝利も予測できなかったのだろうかと言った。

私は、とっさに予測を超える状況だったのかもしれない。コンピュータの話とすれば、**人口知能 (AI) とプログラムで動くコンピュータ**の差ではないかと言った。それは歴史が見る目と微分の目の問題ではないだろうかとも思った。

歴史は、時代を長期の**指数曲線的**に見て判断するが、コンピュータは、指数曲線の**接線**のようなところを微細に渡って計算する。赤ん坊の認識は、何も教わらないままに猫を何十回も何百回も見て猫のイメージを認識する。そして猫だと教えると猫を覚え、他のものも認識し覚えて行く。コンピュータのように詳細に、論理的ではないが**学習**することによって**認識**を高めて行く。

AI とただのコンピュータの違いは、AI が**ディープラーニング**によって認識、判断をするのに対し、プログラムで動くコンピュータは与えられた処理をこなすのみという点である。グーグルの AI は、猫の画像を何百万回と見て**猫のイメージ**を作る。その時、人が猫とはこういうものだと言えとそれ以後 AI は**猫を完全に認識**し、象を与えても、犬を与えてもそれに応じて反応するそうだ。ディープラーニングによって、猫という言葉を与えなくとも猫のイメージ、象のイメージ、犬のイメージを人間のように形成する。プログラムで動くコンピュータにはそれが出来ない。猫について覚えさせて、それは猫だと言えても、象や犬に対しては**非猫**だとしか言えない。感覚的にしか AI のことは解らないが、超大量のデータ処理や定型外処理のできる AI には時代の進歩を感じる。